

経済・金融 フラッシュ

雇用関連統計 12年10月 ～有効求人倍率は2ヵ月連続で悪化

経済調査部門 経済調査室長 齋藤 太郎

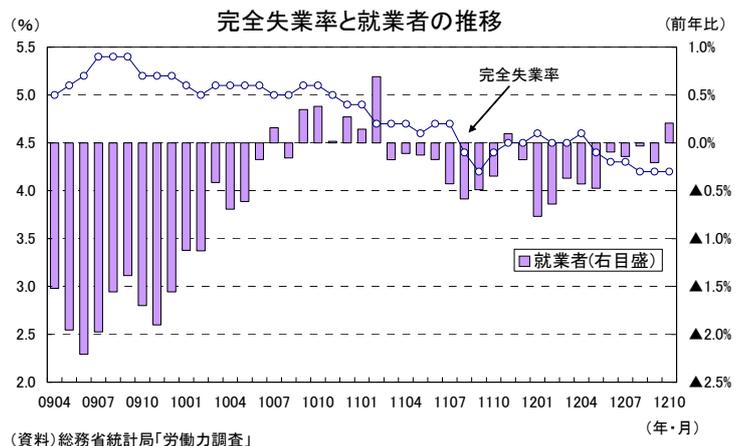
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 失業率は前月から横ばいの4.2%

総務省が11月30日に公表した労働力調査によると、12年10月の完全失業率は前月から横ばいの4.2%となった（QUICK集計・事前予想：4.2%、当社予想は4.4%）。

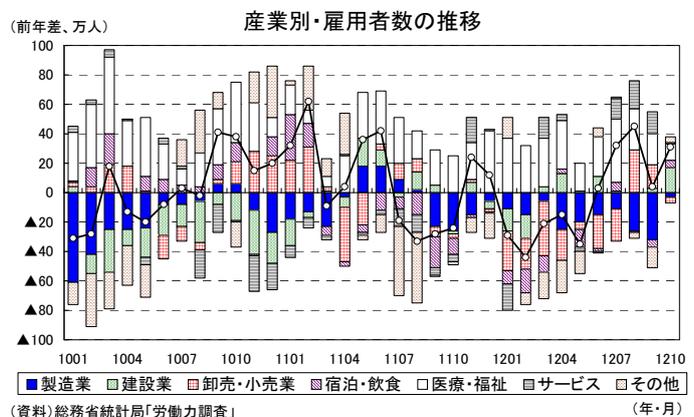
労働力人口が前月から32万人増加する中、就業者数も31万人増（雇用者数も31万人増）と同程度の増加となったため、失業者数は273万人（季節調整値）と前月と同水準となった。

失業率は前月と変わらなかったが、労働市場への参加者が大幅に増えたことがそのまま就業者、雇用者の増加につながっており、額面どおりに受け取れば良い内容といえる。ただし、労働力調査は月々の振れが大きい統計であるため、今月の結果だけで雇用情勢が改善していると判断するのは早計だろう。



雇用者数の内訳を産業別に見ると、復興関連事業を中心とした公共工事増加の影響から建設業が前年比17万人増（9月：3万人増）と増加ペースが加速したほか、製造業は14ヵ月連続で減少したものの減少幅は9月の▲32万人減から同▲3万人減へと大きく縮小した。

一方、卸売・小売が前年比▲4万人減（9月：16万人増）と3ヵ月ぶりに減少し、医療・福祉（9月：21万人増→10月：11万人増）、サービス（9月：15万人増→10月：1万人増）の増加ペースが鈍化するなど、これまで堅調だった内需関連産業はやや低調な結果となった。



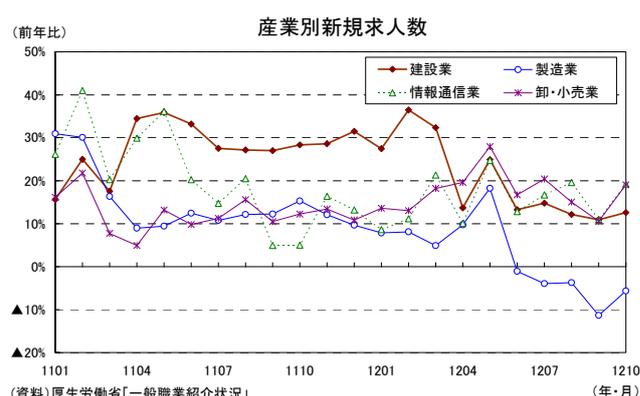
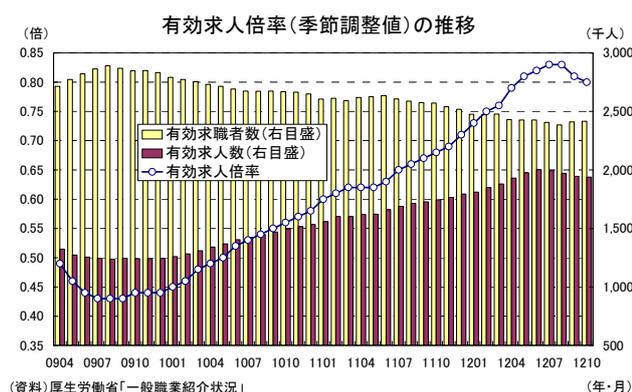
2. 有効求人倍率は2ヵ月連続で悪化

厚生労働省が11月30日に公表した一般職業紹介状況によると、12年10月の有効求人倍率は前月から0.01ポイント低下し0.80倍となった(QUICK集計・事前予想:0.80倍、当社予想は0.79倍)。有効求職者数が前月比0.3%と2ヵ月連続で増加する一方、有効求人数が前月比▲0.4%と4ヵ月連続で減少した。

有効求人倍率の先行指標である新規求人倍率は新規求人数が前月比0.3%と5ヵ月ぶりに増加したことなどから、前月から0.05ポイント上昇し1.29倍となった。有効求人倍率は2ヵ月連続で悪化した。労働需給が一本調子で悪化していくような状況にはないものと判断される。

新規求人数を産業別に見ると、建設業、卸売・小売業、情報通信業などが前年比で二桁の伸びを続けるなか、9月に前年比▲11.3%と大きく落ち込んだ製造業は同▲5.6%と減少幅が縮小した。

製造業の雇用者数、新規求人数は生産活動の低迷を反映し大幅な減少が続いてきたが、10月は両者ともに減少ペースが緩やかとなった。本日発表された10月の鉱工業生産は前月比1.8%と4ヵ月ぶりに前月比で増加し、11月、12月も比較的強めの生産計画となった。鉱工業生産に底入れの兆しが見え始めたことは先行きの雇用情勢を考える上でも明るい材料といえるだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。